

桃太郎

昔むかし、山の中に、おじさんとおばあさんが暮らしていました。

ある日のこと、おばあさんが川で洗濯をしていると、どんぶらこ、どんぶらこ大きな桃が流れてきました。おじさんと一緒に食べようと、おばあさんは桃を持って帰りました。

夕方、山へしば刈りに行っていたおじさんが帰って来ました。「なんと大きな桃じゃ!」「川に流れていたんです。さあ食べましょう。」

とおばあさんが桃を切ろうとしたそのとき、桃が真つ二つに割れ、中から男の子が飛び出しました。「おやまあ、元気な男の子じゃ!」

子どもがいなかった二人は、その子を「桃太郎」と名づけて大事に育てました。桃太郎はやがて、りっぱな男の子になりました。

さて、この村にはたびたび鬼がやって来て、村を荒らし、財産を持つ

て行くのでした。それを聞いた桃太郎は、「すぐに鬼ヶ島へ行つて、

鬼をやつけます。」と言いました。「そうかい、そんならこれを持っていきなさい。きつと

おまえを助けてくれますよ。」とおばあさんが差し出したのは、きびだんご。桃太郎はそれを腰の袋に詰め、鬼退治へ出掛けました。

しばらく行くと、犬がやってきました。犬は、「桃太郎さん、その腰につけたのは何ですか。」と言いました。「きびだんごだよ。一緒に鬼退治に行つてくれるなら、一つあげよう。」

「行きますとも。」桃太郎は犬にきびだんごを一つあげました。

桃太郎と犬が進んで行くと、猿がやってきて「きびだんご、くださいな。」

と言いました。鬼退治に行くかとたずねると、猿は「もちろん!」と言つ

たので、桃太郎は猿にきびだんごを一つあげました。

桃太郎と犬と猿がさらに進んで行くと、キジがやって来ました。「きびだ

んご、くださいな。」鬼退治に行くかとたずねると、キジは大きくうなず

きました。桃太郎はキジにもきびだんごをあげました。

桃太郎、犬、猿、キジの一行、船に揺られて、ついに鬼ヶ島です。すると、

金棒を持った大きな鬼がのつしのつしとやって来て、「なんだお前らは!この

金棒で叩きつぶしてやるわい!」と桃太郎たちに怒鳴りました。



金棒を振り回す鬼に、犬はかみつき、猿はひつかき、キジはつつきま

した。鬼は弱つてきましたが、なかなかやつつけることができません。

そこで、「そうだ、きびだんごだ。」と桃太郎、きびだんごを飲み込

みました。すると体じゅうに力があふれてきて、えいやつと鬼をやつ

けました。「参りました桃太郎さん、もう二度と、村の人に悪さは

しません。」鬼はへこ謝りました。

桃太郎たちは、鬼に取られた村の人の財産を一つ残らず船に積んで、村へ帰りました。村の人たちは、万歳、万歳、と喜びました。

